

化学畳がもたらす危険

Q：現在の畳は体に良くない成分があると聞きますが本当？

A：もともと畳はダニ等の害虫が発生しやすいため、JIS規格でほとんどは防虫加工が施されています。畳の防虫・防カビ処理には高周波をあてる方法と薬剤を染込ませた防虫紙に包んで処理する方法がありますが、手間と費用の関係で後者の薬剤処理が多く徐々に薬剤が揮発し室内を汚染してしまいます。

薬剤には、有機リン系のフェントロチオン・フェニチオン・ナフタリン・ダイアジノンで揮発性があります。これらは、免疫力低下、自律神経に影響を与える可能性があります。特に乳幼児では畳に近い所で呼吸し、畳の上を動き回り、時には畳を舐めてしまうこともあります。乳幼児は免疫力が低く皮膚も呼吸器も敏感。



畳は化学物質のかたまり？

畳表についてもっと学ぼう

畳表の原料はイグサです。

主な産地は熊本（肥後）・福岡（筑後）・佐賀（肥前）・大分（豊後）・広島（備後）岡山（備前）・高知（土佐）・石川（加賀）など。

これらの産地はイグサの栽培が減少傾向にあります。現在では畳表の7割以上が中国産のイグサで作られています。

畳表の作り方

7月初旬から下旬にかけて刈り取られ、すぐに泥染めされます。

天然の土を水で溶かした「染土」という泥水の中にイグサを通して染めイグサに白味と加え、変色を抑え強度を保たせますが、たたみ独特の香りはこの泥染めで生じます。その後、天日で乾かし製織されます。

畳表のイグサの本数は1畳約4000本。織り方は表目織り・ござ目織りがあります。

青すぎる畳には注意を！

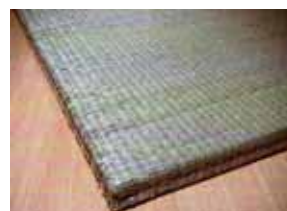
畳表は1畳10万円～1000円くらいまでかなりの幅があります。良いイグサの条件は茎に変色、傷がなく太さ色がそろい、長さがあることです。白っぽい根の部分と黄色い先端を除いた質の良い部分だけが使えます。畳表の色は染土で微妙に異なりますが、「マラカイトグリーン」という染料を添加しイグサの色をより青く見せたり質の劣るイグサを均一にみせ「畳はいつまでも青い」という一般的なイメージに沿った畳表ができあがるのです。

大量生産で二セモノ増加。

この青いイメージ作りのために「マラカイトグリーン」が使われますが、重金属など毒性の強い物質が検出されることをご存知でしょうか？多少の色のはらつきこだわらず、天然の染土のみで泥染めした畳を大切にしたいものです。畳の青さ、新鮮さは数ヶ月で褪せて目や肌になじんでいくのが昔はあたり前でしたから。



イグサを染土に通しているところ



減農薬無着色のカヤツリイグサで
「ふち無しの琉球畳」(アップル施工例)

畳床についてもっと学ぼう

畳床には昔から稲わらが使われました。

もともと、わらは稲作の副産物としてまた、廃棄するときは肥料や塗壁のつなぎ材として活用されるリサイクル可能な産物で日本の気候風土に適した床材でした。畳床は約40cmに積層した稲わらを5cmに圧縮し縫い上げたもので1畳で約3万本のわらが使われて、層と層を直交させ一般的には6層でつくります。また、7層で縫目間隔が短いものほど高級品です。現在は無農薬は少なく台湾・韓国・中国の輸入品が多くなりました。



炭化コルクを使用した畳
ダニを抑え水分調節が特徴



国産針葉樹炭を配置
害虫対策に植物性漢方紙を使用



ヒノキチップを原料とし防虫紙
接着剤は一切不使用
ヒノキは吸放油性・防虫・抗菌
機能に優れる



畳床の下に吸着性に優れたヤシ
殻活性炭を不織布の間に挟み込
んだ TVOC 吸着シートも有効

おすすめの自然素材健康畳は上記写真のもの。

最近ではコルクや木炭などの自然素材を利用した畳床が作られています。わら床と天然素材をサンドイッチにしたもので本物の畳プラス調湿性やダニの忌避効果が期待できるエコロジー＆バウビオロジーな畳に替えましょう！